

令和7年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立調布大塚小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・基礎となる知識を意味を伴って理解させたこと、理解したことを児童同士で説明し合う理解確認の活動を取り入れたことで、知識の定着につなげることができた。
- ・知識に加えて、そこから考えたことや疑問に思ったことを中心に新聞等に表現させることを通して、社会的事象の特色や意味を考える力と表現力が養えた。
- ・時事問題を取り上げ、自身の生活との関わりについて考える課題に取り組みさせたことで、主体的に考える態度につなげられた。

(2) 課題

- ・地図や資料の読み取りの問題が他の問題より達成度が低い。地図や資料の読み取りの必然性がより高くなる学習活動にしていく必要がある。
- ・主体的に学習に取り組む態度の達成度を上げる必要がある。語彙力や社会認識の差が「社会科は難しい」というとらえや受け身な学習態度につながらないように、授業を改善する必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較)

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	△	/	/
第5学年	△	≡ (第4学年時)	/
第6学年	≡	≡ (第5学年時)	≡ (第4学年時)

(2) 分析(観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値と比較すると上回っていた。	・目標値と比較すると上回っていた。	・学習したことを基に、これからの地域社会の発展について、積極的に考えようとする児童が多く見られた。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値と比較すると同程度であった。	・目標値と比較すると上回っていた。	・学習したことを基に、生活の在り方やこれからの国や社会の

		発展について、積極的に考えようとする児童が大半であった。
--	--	------------------------------

3 授業改善のポイント(観点別)

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・地図記号や方位、都道府県名などを、内容を関連付けながら他の教科でも扱うことで定着を図る。 ・算数の時間を活用し、資料の数値を正確に読み取る力を身に付けさせる。 ・家庭で理解確認の説明をすることを習慣化し、児童自身にその効果を実感させることで知識の定着を図る。 ・習得させたい知識・技能に応じて、映像や実物などの資料を効果的に活用し、実感を伴った理解をさせる。 ・資料提示にはICT機器を活用し、児童が必要に応じて取り出し、予習や復習にも活用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞やポスター・スライド等、表現方法を選択させて表現する活動を継続的に行う。表現内容は、調査、見学、体験したことに、考えたことや疑問を個別に追究したことなども、加えて表現させる。 ・資料を目的によって選び、有効に活用して新聞・ポスター・スライド作りに生かせるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの時間を十分取り、感じたことや疑問、さらに調べたいことを考える習慣を身に付けさせる。 ・知識習得を効率よくすすめ、単元の終わりに個々やグループで学習問題を設定し、探究する時間を設ける。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・意味を伴った理解ができるよう説明をし、それを児童が他者に説明して理解確認をする、インプットとアウトプットをバランスを取りながら行い、知識の定着を図る。 ・資料提示にはICT機器を活用し、児童が必要に応じて取り出し、復習にも活用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対話を取り入れる場面では、目的をはっきりさせると、対話する相手を自分で決めさせることで、一つの事象を多面的・多角的に考えられるようにする。 ・ノートやスライドなどにまとめたり、発表したりするときには、目的や対象をはっきりさせて、それに合わせて適切に表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの時間を十分取り、感じたことや疑問、さらに調べたいことを考える習慣を身に付けさせる。 ・知識習得を効率よくすすめ、単元の終わりに個々やグループで学習問題を設定し、探究する時間を設ける。